事業成果報告書

１．教育委員会名　：　安八町教育委員会

２．研究主題　：　［調査研究Ⅱ］小規模校を存続させる場合の教育活動の高度化

３．研究タイトル　：　確かな読む力を身に付け、自らの考えを豊かに伝え合う子の育成
～個に応じた指導・援助と豊かに伝え合う交流活動の工夫を通して～

４．研究課題　：

（１）小規模校のメリットを最大化させる方策
■　ア．少人数であることを最大限に生かした教育活動に関する研究
（研究課題）
①徹底した個の見届けと個に応じた指導・援助の工夫、指導改善サイクルの確立
②家庭、地域とつながり、豊かに伝え合う力を育む読書活動の工夫

（２）小規模校のデメリットを最小化させる方策
■　ア．学校間ネットワークの構築
（研究課題）
①郷土愛を育み、豊かに伝え合う力を発揮できる他県の小学生との交流活動の工夫

■　イ．社会教育と密接に連携した学校教育活動
（研究課題）
②豊かに伝え合う力を発揮できる地域の方との交流活動の工夫

５．事業の実績

（１）調査研究のねらい

・本牧地区は、揖斐川沿いの輪中地帯で畑作農業地域が多いため、新しい住宅が建つことは少なく人口も減少しつつあるが、地域の住民は、「地域の学校」としての意識が強い。
・昨年度半年間、本事業の採択を受け、文学的文章の「読むこと」で単元を通して並行読書を位置付けながら毎時間単元を貫く系統的な言語活動を各学年が行ってきた。単元の初めに「お話の心に残った所を紹介するために、お話宝箱を作ろう」等、単元を貫く課題（単元の出口で目指す目標）を子どもに示し、それに向けた目的的な読みを行うことで、子どもは主体的、意欲的に読むことができた。第３次では、魅力カードやお話宝箱等で、並行読書で読んできた本について読み取ったことを紹介し、単元で付けたい力（指導事項）を付けることができた。教材文と並行して自分の選んだ本を読んでいくこと（並行読書）で、より物語の主題について深く考えたり、多くの本に親しむ機会が増えて読書が広がったりして、自分の読み取ったことを豊かに伝えようとする主題に迫ることができた。

・本事業の２年目を迎える今年度は、小規模校のメリットを最大化させる方策として、以下の２点に取り組んだ。

【メリットの最大化①】（徹底した個の見届けと個に応じた指導・援助の工夫、指導改善サイクルの確立）少人数だからこそできる一人一人の個性や力の徹底した見届けを個人カルテを活用して行い、一人一人に確かな学力を付ける個に応じた指導・援助を工夫する。
　話す、聴く等の学び方、確かな学力を身に付けさせるための個に応じた指導・援助は、少人数の教職員だからこそ共通理解しやすく、共通行動のもと指導できるはずである。指導改善サイクルを確立させ、ＰＤＣＡサイクルで目標の達成状況を見届け、点検し、指導改善を図る。

【メリットの最大化②】（家庭、地域とつながり、豊かに伝え合う力を育む読書活動の工夫）
　図書館教育が牧小の伝統であるだけでなく、読書に親しむ牧小校区へと広げるため、国語の文学的文章「読むこと」第３次の発展学習で他学年児童、他県の小学生（越廼小学校）、家庭、地域の方に並行読書の本を紹介する機会をもち、豊かに伝え合う力をより育む。
　保護者も巻き込んで読書意欲を喚起し、家庭での読書を通した親子のふれあいが深まることを目指す。

・小規模校のデメリットとして、クラス替えもなく保育園から同じメンバーで生活しているため、多くの人に 出会い、多様な考え方に触れる機会が少ないことがあげられる。そこで、デメリットを最小化させる方策として、より多くの人とふれあい、交流する機会を意図的に設定し、国語や図書館教育を通して育んだ自らの考えを豊かに伝え合う力を発揮できるようにするため、以下の２点に取り組んだ。

【デメリットの最小化①】（郷土愛を育み、豊かに伝え合う力を発揮できる他県の小学生との交流活動の工夫）
　進んで挨拶したり、感想を豊かに表現したりする子を育成し、視野を広げ、異なる地域や人々に親しみをもち、協力し合おうとする気持ちや態度を育む。デメリットを最小化する方策をデータで客観的に検証できるよう、交流した相手から表現についての評価をいただく。

【メリットの最小化②】（豊かに伝え合う力を発揮できる地域の方との交流活動の工夫）

　進んで挨拶したり、感想を豊かに表現したりする子を育成し、相手に分かりやすく伝えるための話し方、丁寧な話の聴き方を身に付けさせる。デメリットを最小化する方策をデータで客観的に検証できるよう、交流した相手から表現についての評価をいただいたり、保護者や児童による学校評価、推進会議の評価を確実に位置付けたりする。

（２）調査研究の実施状況（平成28年度）

	メリットの最大化、デメリットの最小化のための職員研修等	メリットの最大化 ①個に応じた指導・援助の工夫　指導改善サイクル ②読書活動の工夫	デメリットの最小化 ①他県の小学生との交流活動 ②地域の方との交流活動
５月	・少子化・人口減少に対応した活力ある教育活動推進事業、主題研究の共通理解　Ｐ ・有識者による研究の進め方等の指導Ｄ	①「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」Ｄ ①「家庭学習のレベルアップ週間」の取組　Ｄ ①Ａ・Ｂ問題トレーニングプリントを朝学習で行う。Ｄ ①朝のスピーチ開始　Ｄ	①越廼小学校との「すいせん交流ｉｎ安八」　Ｄ ①越廼小学校との「修学旅行交流ｉｎ奈良」Ｄ ①交流活動の相手（越廼小の先生方）からの挨拶や伝え合う力に対する評価をいただく。Ｃ
６月	・２年生全校研究授業研究会　Ｃ ・６年生全校研究授業研究会　Ｃ ・第１回推進会議（研究授業参観）Ｃ ・ＩＣＴ機器の有効活用研修会Ｄ	①２年生全校研究授業　Ｄ ②２年生から保護者への本の紹介　Ｄ ①６年生全校研究授業　Ｄ ②６年生から越廼小６年生への本の紹介作品送付　Ｄ ②交流活動の相手（越廼小の先生方）からの作品に対する評価をいただく。Ｃ ②ＰＴＡ母親委員会の読み聞かせＤ ②ＰＴＡ家読のすすめ　Ｄ ①「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」Ｄ ①「家庭学習のレベルアップ週間」の取組Ｄ ①Ａ・Ｂ問題トレーニングプリントを朝学習で行う。Ｄ ②読書月間パートⅠ　Ｄ	②交流活動の相手（あすわ苑の所員の方）からの挨拶や伝え合う力に対する評価をいただく。Ｃ

７月	・１学期の学習指導についての自己評価実施と分析「牧小学校の授業はこれだ！」「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」「家庭学習のレベルアップ週間」の反省と改善　ＣＡ ・牧小学校評価（保護者、児童、教職員）ＣＡ	①「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」Ｄ ①「家庭学習のレベルアップ週間」の取組　Ｄ ①・Ａ・Ｂ問題トレーニングプリントを朝学習で行う。Ｄ ①②多読賞表彰、話し方・聴き方名人表彰　Ｃ 【町】 ・登龍校区・東安校区家庭学習レベルアップ週間実施	①越廼小学校との「すいせん交流ｉｎ越廼」Ｄ ①交流活動の相手（越廼小の先生方）からの挨拶や伝え合う力に対する評価をいただく。Ｃ
８月	・並行読書研修会（並行読書の実践を進めている先生をお招きして）Ｄ	②図書館整備　Ｄ ②図書の本のバーコード化　Ｄ	
９月		①「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」　Ｄ ①「家庭学習のレベルアップ週間」の取組Ｄ ①Ａ・Ｂ問題トレーニングプリントを朝学習で行う。Ｄ	
10月	・先進校の視察（予定・・・岐阜市立則武小学校）Ｄ	①「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」Ｄ ①学力確認テスト（Ａ問題、Ｂ問題対応）の実施　Ｃ ①「家庭学習のレベルアップ週間」の取組Ｄ ①Ａ・Ｂ問題トレーニングプリントを朝学習で行う。Ｄ	

11月	・先進校の視察（ビブリオバトル、図書館の整備について学ぶ）D ・３年生全校研究授業、＆オール岐阜による学力向上支援プラン研究会C ・４年生全校研究授業研究会C ・第２回推進会議（研究授業参観）C ・５年生全校研究授業研究会C	①３年生全校研究授業　D ①５年生全校研究授業　D ②５年生から越廼小５年生への本の紹介作品送付D ①４年生全校研究授業　D ②４年生から越廼小４年生への本の紹介作品送付D ②交流活動の相手（越廼小の先生方）からの作品に対する評価をいただく。C ①「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」D ①「家庭学習のレベルアップ週間」の取組　D ①A・B問題トレーニングプリントを朝学習で行う。D ②読書月間パートⅡ　D ②ＰＴＡ母親委員会の読み聞かせD ②ＰＴＡ家読のすすめ　D ②地域の方の読み聞かせD 【町】 全国学力状況調査の結果を受けて安八町の傾向を示し、家庭学習の手引きを全児童生徒の家庭に配布した。	②ほうれん草の会での本の読み聞かせ（３年）　D ②交流活動の相手（ほうれん草の会の方）からの挨拶や伝え合う力に対する評価をいただく。　C
12月	・有識者による講演会　D ・２学期の学習指導について自己評価実施と分析「牧小学校の授業は、これだ！」「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」「家庭学習のレベルアップ週間」の見直し　ＣＡ ・牧小学校評価（保護者、児童、教職員）ＣＡ ・ＩＣＴ機器の有効活用研修会　D	①「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」D ①「家庭学習のレベルアップ週間」の取組D ①A・B問題トレーニングプリントを朝学習で行う。D ①②多読賞表彰、話し方・聴き方名人表彰C ②全校ビブリオバトル 【町】 ・ＷＥＢカメラの設置（町内３校） ・登龍校区・東安校区家庭学習レベルアップ週間実施	
1月	・有識者による講演会　D ・１年生全校研究授業研究会　C ・第３回推進会議（わくわく発表会参観）　ＣＡ	①１年生全校研究授業　D ①「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」D ①「家庭学習のレベルアップ週間」の取組D ①A・B問題トレーニングプリントを朝学習で行う。D ①岐阜県学力テストの実施C	②わくわく発表会　D ②推進会議のメンバーの方から挨拶や伝え合う力に対する評価をいただく。C

2月		②１年生から保育園児へのﾐﾆﾋﾞﾌﾞﾘｵﾊﾞﾄﾙ（入学説明会）Ｄ ②保育園の先生から挨拶や伝え合う力に対する評価をいただく。Ｃ ①「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」Ｄ ①「家庭学習のレベルアップ週間」の取組Ｄ ①Ａ・Ｂ問題トレーニングプリントを朝学習で行う。Ｄ ①学力確認テスト（Ａ問題Ｂ問題対応）の実施　Ｃ ①ＣＲＴテスト　Ｃ ②地域の方の読み聞かせ Ｄ 【町】 ・登龍校区・東安校区家庭学習レベルアップ週間実施	②感謝する会　Ｄ ②地域の方から挨拶や伝え合う力に対する評価をいただく。Ｃ ①越廼小学校とのスカイプによる交流学習（ビブリオバトル・ビブリオトーク発表）Ｄ ①名森小学校とのスカイプによる交流学習（ビブリオバトル・ビブリオトーク発表）Ｄ
3月	・６年生を送る会　ＤＣ ・３学期の学習指導についての自己評価実施と分析「牧小学校の授業は、これだ！」「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」「家庭学習のレベルアップ週間」の見直し　ＣＡ （終了14日）	①「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」Ｄ ①「家庭学習のレベルアップ週間」の取組　Ｄ ①Ａ・Ｂ問題トレーニングプリントを朝学習で行う。Ｄ ①②多読賞表彰、話し方・聴き方名人表彰　Ｃ 【町】 ・教育委員会研修視察 （ＩＣＴ教育・白川町教育委員会・佐見中学校）	

６．事業の成果

（１）研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

目的：【小規模校のメリットの最大化①】
（徹底した個の見届けと個に応じた指導・援助の工夫、指導改善サイクルの確立）
具体的目標：
・単元で付けたい読む力（指導事項）を一人一人に確かに身に付けさせる。
・話す・聴く等の学び方や確かな学力（基礎・基本）を身に付けさせる。
検証
→全国学力・学習状況調査、学期末テスト「読むこと」平均点８０点以上
→学力確認テストＡ問題平均点８０点以上　Ｂ問題平均点７０点以上
→「牧小の授業は、これだ！」「話し方、聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」等の教師評価◎８０％以上
→牧小児童評価「はきはき発表」◎が８０％以上

◎学期末テストやＡ問題確認テスト等の基礎的な内容を問うテストでは、点数に向上が見られてきた。単元で付けたい読む力（指導事項）を一人一人に確かに身に付けさせるため、個人カルテを活用して一人一人の実態を把握し、個に応じた指導・援助を具体的に考えて授業に臨んだ成果だと考えられる。個人カルテは、小規模校だからこそ作成可能なものであり、小規模校のメリットを最大化させるために有効な方策であったと言える。
◎全国学力・学習状況調査では、平成２８年度はＡ、Ｂともに向上が見られたが、学級の人数も少ないため、一人の点数によって大きく左右され、毎年変動も大きいので、本実践の成果であるとは言い切れない。
▲学期末テストやＡ問題確認テスト等の基礎的な内容を問うテストでも、学年によってはまだ８０点に達していない学年もある。引き続き個人カルテを活用した個に応じた指導・援助の在り方を検討していく。
▲Ｂ問題確認テスト等の活用力を問うテストでは、点数に向上が見られなかった。活用力を高めるためには、まだ成果は上げられなかったので、引き続き指導を繰り返したり、さらなる個の学力向上につなげるための手立てを考えたりしていく必要がある。

◎牧小児童評価「はきはき発表」では、９０％以上が「おおむねできている」と評価しており、話す力、聴く力を高めることができてきたと考えられる。
▲但し、他項目と比べると、「よくできている」という高い評価をしている割合は、決して多くはない。また、学年によって差も見られる。話し方、聴き方の指導の在り方を教職員で共通理解しながら、学校全体で指導を継続していく必要がある。
▲教師評価では、１００％が「おおむねできている」と評価しているが、そのうち「よくできている」は３０％ほどである。まだまだ指導改善の余地はあると言える。家庭学習レベルアップ週間、話す・聴く取組週間、家読週間等、いろいろな取組をしているが、それを関連させ、児童自身の意欲を高めるような個人カルテの在り方を模索している。より効果的な小規模校のメリットの最大化となる個人カルテへと高めていく。

目的：【小規模校のメリットの最大化②】
（家庭や地域とつながり、豊かに伝え合う力を育む読書活動の工夫）
具体的目標：
・国語の文学的文章「読むこと」第３次の発展学習で他学年児童、他県の小学生（越廼小学校）、地域の方に並行読書の本を紹介する際、相手意識を明確にもって豊かに伝え合うことができるようにする。
・読書意欲を高め、より多くの本を読もうとする児童を増やす。
・新たな本の魅力に気付いて、読書生活が広がるようにする。
・保護者も巻き込んで読書意欲を喚起し、家庭での読書を通した親子のふれあいが深まることを目指す。
・地域にも読書の楽しさを発信して交流を深め、地域に愛着をもつことができる。
・「読書に親しむ牧小校区」へと広げ、地域住民にとってなくてはならない学校としていくことを目指す。

検証
→交流活動の相手（他学年教師、他県の小学校教師、地域の方）からの豊かに伝え合う力に対する評価◎が８０％以上
→１年間の読書冊数が１００冊を越えた児童が８０％以上　牧小児童評価「どんどん読書」の自己評価◎が８０％以上
→保護者評価（母親委員会アンケート）の「読書意欲の向上」「親子のふれあい」◎が８０％以上
◎図書の本の一人あたりの学期別貸出冊数は、少しずつであるが増えており、１学期間に６０冊程度とたくさん読めていると言える。
◎児童評価の「並行読書は、楽しくできているか、家読にも進んで取り組んでいるか」は、６０％が「よくできている」３０％が「おおむねできている」と高い評価をしており、読書意欲を高め、読書生活が広がってきていると考えられる。

▲但し学年別の平均読書冊数を見てみると、学年による差が非常に大きく、４、６年生は読書の秋と言えども、２学期に下降してしまっている。高学年になるほど１冊のページ数が多くなり、冊数だけでは読書量を比べることはできないが、何かと忙しくなる高学年も読書離れとならないよう、工夫した働きかけをする必要がある。
▲国語の文学的文章「読むこと」第３次の発展学習で他学年児童、他県の小学生（越廼小学校）、地域の方に並行読書の本を紹介する活動を広げ、「読書に親しむ牧小校区」の一員としての自信をもって地域や他校に発信する体験を通して、豊かに伝える力を育む。

◎ＰＴＡ母親委員会による読み聞かせや図書館の本のバーコード化、「家読」に取り組んだことで、家庭における読書意欲の向上や本を通じて親子のふれあいが行われた報告を受けることができた。
◎４年生までは、８０％以上が「これからも家読を続けていきたい」と答えており、母親委員会による働きかけが家庭における読書意欲の向上や本を通じた親子のふれあいに効果的だったと考えられる。ＰＴＡ母親委員会と連携して読書活動を進めることは、小規模校だからこそ個の見届けがしやすく、小規模校のメリットを最大化できる方策と言える。
▲５，６年生になると、否定的な答えも増えており、「なかなか忙しくて、ゆっくり読書をする時間がとれない」「毎日となると、負担感があった」という意見も寄せられた。
▲１回目の家読に対するアンケート結果を受けて、２回目は負担感の少ない取組カード、感想用紙が準備されたが、各個人、各家庭任せとなると、高学年は提出される方もグッと減ってしまい、各家庭の読書の様子を把握することができなかった。
▲読書の楽しさ、学力向上につながる等、読書のメリットをもっと知っていただけるよう情報提供するとともに、家庭学習レベルアップ週間と家読週間を関わらせた取組を工夫する必要がある。

目的：【小規模校のデメリットの最小化①】
（郷土愛を育み、豊かに伝え合う力を発揮できる他県の小学生との交流活動の工夫）
具体的目標：
・進んで挨拶したり、感想を豊かに表現したりする子を育成する。
・郷土を愛する気持ちや相手を思いやる心を育てる。
・視野を広げ、異なる地域や人々に親しみをもち、協力し合おうとする気持ちや態度を育む。

検証
→交流活動の相手（越廼小学校）からの表現に対する評価◎が８０％以上
◎越廼小学校とのすいせん交流は長い歴史があるが、今回は交流前から小規模校のデメリットの最小化をするために（郷土愛を育み、豊かに伝え合う力を発揮できる他県の小学生との交流活動の工夫）に取り組んでいることを越廼小学校の校長先生にお話しし、交流後に牧小の子どもたちの「豊かに伝え合う力」を５観点で評価していただきたいとお願いした。こちらの趣旨をご理解いただき、ご協力がいただけた。
◎５月の安八町での第１回すいせん交流と７月の越廼での第２回すいせん交流を比較すると、下記の５項目中３項目（２３４）で向上が見られた。特に、２の時と場にあった言葉遣いについては、第１回の交流時に牧小の児童の言葉遣いに対して越廼小の先生から直接厳しく指導していただいていた。これを受けて、担任がすいせん交流のふり返りを位置付け、「ちくちく言葉をなくそう」等、目標を設定した。第２回交流前に取組を行い、毎日評価をしていった結果、交流時に言葉遣いに気を付け、「よくできていた」の評価が３０％以上向上した。小規模校同士の交流は、交流のねらいを互いに共通理解しやすく、視野を広げたり郷土を愛する気持ちを育てたりすることができた。小規模校のデメリットの最小化に有効な方策と言える。

▲しかし、５（子どもたちは、落ち着いて話を聴いたり、笑顔で受け答えしたりしていましたか）については、「あまりできていなかった」が５０％近くと増え、下降してしまった。落ち着いて話を聴いたり、笑顔で受け答えしたりするには、相手への思いやりが根底にないと、簡単に向上させることはできない。
▲「豊かに伝え合う力」は、声の大きさ、言葉遣い、内容だけでなく、表情や態度も必要不可欠な要素である。そうしたコミュニケーション力を養う機会を位置付けることも考える必要がある。

目的：【小規模校のデメリットの最小化②】
（豊かに伝え合う力を発揮できる地域の方との交流活動の工夫）
具体的目標：
・進んで挨拶したり、感想を豊かに表現したりする子を育成する。
・一人一人に自分の考えを豊かに伝え合う力を発揮させる。
・相手に分かりやすく伝えるための話し方、丁寧な話の聴き方を身に付けさせる。

検証
→交流活動の相手（地域の方）からの表現に対する評価◎が８０％以上
→推進会議の際、記入していただく評価用紙で、進んで挨拶、豊かに表現の項目で◎が８０％以上
▲長寿会、区長会、牧和太鼓保存会、学校評議員、民生児童委員、ＰＴＡ役員等、毎回さまざまな地域の方に「豊かに伝え合う力」の評価をお願いしてきたため、評価者も被評価者も評価場面も異なることになってしまった。もっと意図的、計画的に評価をお願いしないと、変容を見届けることはできない。
◎しかし、全グラフを俯瞰してみると、３（子どもたちは、自分の考えなどをはきはき話していましたか。）は、いずれも向上してきていることが分かる。国語の授業だけでなく、普段の授業、全校集会での感想発表等で「話す力・聴く力」を高めるために、全教職員で指導してきた成果が表れてきていると言える。

▲２（子どもたちは、時と場にあった言葉遣いができていましたか。）については、いずれも下降傾向にあることが見て取れる。地域の方は顔見知りということもあり、言葉遣いは必ずしも丁寧にできていないと思われる。年長者に対する言葉遣い等も直接指導する機会はなかったので、コミュニケーション力を養う機会を位置付ける必要がある。
◎少人数だからこそ一人の子どもに地域の大人が関わる機会が多く、自然と子どもが打ち解け、心を開き、相手を思いやりながら豊かに伝える力を発揮していく姿を見ることができた。
◎学校を参観された方から「初対面の大人が話しかけたのに、ごく自然な受け答えで応対する姿が見られた。多くの地域の方と日頃から交流し、継続しているからこそだろう。」とご意見をいただくことができた。豊かに伝え合う力を発揮できる地域の方との交流活動の工夫は、小規模校のデメリットを最小化するのに有効な方策であった。
▲小規模校推進会議の際の評価は、その時参観していただいた国語の授業に対する評価が主となるため、比較して見ることは難しい。

◎しかし、毎回、推進委員の皆様から学校の取組に対する励ましの言葉、児童のよい姿に対するお褒めの言葉をかけていただくことができ、教職員のモチベーションアップにつなげることができた。
◎課題についても、個人カルテの在り方、ＩＣＴ機器の活用等について具体的なご意見をいただくことができ、その後の研究実践のヒントとなった。
◎推進委員のメンバーとして学校評議員さんにお願いをしてきたので、学校が取り組んでいることにご理解をいただけ、地域との交流活動により協力していただけるようになった。
◎推進委員のメンバーとしてお願いをしている有識者の先生からは、継続してご指導がいただけた。本校の研究実践の成果を新しい学力観と関わらせて説明してくださったり、教職員の指導上の悩みに親身に相談に乗ってくださったりして、本事業の取組を支えてくださった。

（２）成果物等

成果物名
「確かな読む力を身に付け、自らの考えを豊かに伝え合う子の育成」

（３）今後の取組予定

来年度取り組みたい活動
・確かな学力向上につながり、児童自身の学習意欲を喚起する個人カルテの工夫改善
・安八町内の小学校（名森小学校）、越廼小学校との遠隔システムによる交流学習（ビブリオトーク、ビブリオバトル）の工夫
・家庭や地域とつながり、豊かに伝え合う力を育む読書活動の工夫を図る母親委員会との連携継続
・コミュニケーション能力の向上を図る学習活動、職員研修の工夫

メリットの最大化で目指す目標値
・全学年　学期末テスト「読むこと」平均点８０点以上
・全学年　学力確認テストＡ問題平均点８０点以上　Ｂ問題平均点５０点以上
・学期別の平均読書冊数が低学年８０冊、中学年５０冊、高学年４０冊以上
・全学年　牧小児童評価「はきはき発表」の自己評価Ａが５０％以上、Ｂも含めて８０％以上
・全学年　牧小児童評価「どんどん読書」の自己評価Ａが５０％以上、Ｂも含めて８０％以上
・「牧小の授業は、これだ！」授業改善達成率　展開、終末で８０％以上
・話す・聴く指導　教師評価Ａが５０％以上、Ｂも含めて８０％以上

デメリットの最小化で目指す目標値
・越廼小学校の先生からの表現に対する評価が全項目で８０％以上
・交流活動をした地域の方からの表現に対する評価が全項目で８０％以上
・推進会議の際、記入していただく評価用紙で、全項目で８０％以上
【町として】
・三校合同ビブリオトーク（安八町中央公民館）